

# 博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

|          |                          |       |       |
|----------|--------------------------|-------|-------|
| プログラム名称  | 法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム | 申請大学名 | 名古屋大学 |
| 申請大学長名   | 濱口 道成                    |       |       |
| プログラム責任者 | 定形 衛                     |       |       |

1. 進捗状況概要

- ・全般的に熱意をもって計画を進捗させているが、現地訪問した時点では教育指導プログラムが未だスタート段階になく、学生との懇談はかなわなかった。  
プログラム参加学生の獲得について、海外からの留学生の応募は十分見込めるが、日本人学生の応募は不確定要素が伴うため、実際に応募を受け付けるまで分からないとのことだった。
- ・交付金額が申請金額より減額されたことに対し、計画の一部を縮小しつつも、主要な部分は当初計画通りに進めることが可能との回答を得ている。
- ・テレビ会議用システムを用いた双方向の遠隔授業や遠隔セミナーが可能な体制を構築しており、現地視察時に実際にウズベキスタンやカンボジアにある施設との交信を体験した。また、静かに独習する図書館のイメージを一新させる、OA 機器をフルに利用したグループ・ディスカッション・スペースなどを配置した総合図書館が、少人数教育プログラムの実効性を高める施設として整備されている。
- ・アジアを視座に置いた専門家の養成プログラムであることから、学生のレポートやプロポーザル等の作成を始めとして、教務事務や海外研修に伴う旅費関連事務なども主として英語で行うために、それを可能とする教育補助体制や事務体制を人事面で充実させている。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

概ね順調に進捗しているが、以下の 2 点について検討が望まれる。

- ・大型資金が投入されるプログラムであることから、事務組織を含め、迅速で弾力的な意思決定が実行可能となるような運営体制を確立しておくことが肝要である。
- ・近年、定年退職した年齢層の人材が、各種の NPO 活動に積極的に関わっている例があり、海外での法整備活動などにも適任者がいると思われる。そうした人材のプログラムへの関与や、また場合によっては、そのような人材を大学院学生として受け入れることも期待される。